

news

シクロデキストリンの有用性④

R体αリポ酸、効果は2倍以上。安全性は？

シクロケム

αリポ酸にはR体とS体の2種類があり、そのうちのR体が「糖代謝」「インスリン抵抗性の改善」「大動脈血流改善効果」「抗老化作用」などでS体よりも高い効能をもたらすことが、これまでの研究で明らかにされている。しかし、R体は不安定な成分で、カプセル充填や、錠剤化の過程で崩壊してしまうし、胃酸にも弱いなど、製品化は困難だった。米

αリポ酸の研究第一人者も注目

国ではこの問題についてR体αリポ酸をナトリウム塩とすることで、安定性を高めた製品を販売している。しかし日本国内ではナトリウム塩の摂取が認められていないため、この物質での販売には問題があった。現在国内に流通しているαリポ酸製品はR体とS体を同程度含む、比較的安定性の高い「ラセミ体」と呼ばれる製品が販売されている。

一方、シクロケムが今年9月から供給を開始したαリポ酸R体は、R体をシクロデキストリンで包接加工することで、熱や胃酸で分解したり重合したりするという問題を一気に解消している。こ

から製品化され、現在まで広く利用され続けている」という一つの事実がある。

これに加え、07年にαリポ酸を含む抗酸化物質の研究に関する第一人者であるレスター・パッカー氏により行われた薬物動態学的検討では、12人のボランティアに600mg/日、その内の一人には600mg×3/日のリポ酸を投与した。その結果、問題があるような副作用は一切確認されなかった。

またシクロケムがマウスを用いて行った急性毒性試験でも安全性を確認しており、通常のαリポ酸製品と同様に安全に使用できる素材であるとい

える。  
αリポ酸の研究第一人者  
レスター・パッカー氏が  
5賞賛の声も

米国では01年から広く流通しているR体αリポ酸

10月末に開催された第5回食と健康に関する新潟国際シンポジウムにおいて、レスター・パッカー氏が招待演者として招かれ、R体に関して講演を行った。



寺尾社長とパッカー氏④

パッカー氏は講演で、αリポ酸はS体やラセミ体ではなくR体のみが生体内システムにおいて必須なものとして、R体αリポ酸は

特に、エネルギー産生と炭水化物やタンパク質の代謝調節に必須であるとした。その他、R体の興味深い働きとして、以下の効果を取り上げた。

▼「グルタチオンの合成を促進」▼「アルツハイマー病に有効(Q10やDHAの組合せ)」▼「脳へのグルコース取り込みの促進」▼「抗酸化物質ネットワークの鍵となる抗酸化物質でNADHによって還元型リポ酸となりビタミンCやEなどの再生」

この日、シクロケム代表取締役社長の寺尾氏は、パッカー氏と面会を行い、包接加工により100%胃を通過できる包接化R体αリポ酸について説明した。パ

カー氏は長年R体の健康増進作用に注目する一方、その利用に当たっては、安定化が困難で重合(高分子化)してしまう問題を危惧していた。そこで、その問題を見事に解決したシクロケムの技術を賞賛した。

また安全性に関して前記の12人のボランティアによる600mgの経口摂取による薬物動態学的検討を振り返り、試験に使用したR体は、不安定なため20%は重合(高分子化)している。実際の投与は500mg弱ではないかと考えるが、それ以下であれば十分に安全であろう、とコメントしている。